

花の進化園におけるキョウチクトウ科植物の植栽記録

佐藤祐輔・上岡忠直

2023年に花の進化園（以下、進化園）にキョウチクトウ科の植物を6种植栽したので、その生育状況について記す。

キョウチクトウ科の植物の多様性を啓発することを目的として、トウワタなど園芸流通している種と日本に自生している野生種の植栽および展示を行った。トウワタ、フウセントウワタ、ニチニチソウ、リュウキュウガシワ、ツルモウリンカ、ホウライカガミを2023年4月に播種し、育苗した苗を同年8月に進化園に定植した。以下に、栽培記録を種ごとに示す。以下の記録は全て2023年のものである。

トウワタ *Asclepias curassavica* L. (写真)

南米原産の多年生草本。国内（主に奄美大島以南）では、カバマダラが食草とする。進化園では、12月23日から株が枯死し始めた。枯死する前にほぼ全ての果実が熟したため、多くの種子を得ることができた。1つの花序あたりの花期が長く、根元から多く分枝したため、花期が8月中旬～12月初旬となった。花期が約4か月とほかの植物に比べて長いため、栽培する上で優れていると思われる。病気は目立たなかったが、キョウチクトウアブラムシがとても寄生しやすく、生育期は一か月に1度の頻度で薬剤散布を行った。



写真 植栽したトウワタ

フウセントウワタ *Gomphocarpus physocarpus* E.Mey.

南アフリカ原産の多年生草本。進化園では、12月27日から株が枯死し始めた。開花し、果実が成長したが、種子が完熟する前に株が枯死し

たため、採種することができなかった。採種する場合は苗の定植を早めることで対応できると思われる。

ニチニチソウ *Catharanthus roseus* (L.) G.Don

マダガスカル原産の多年生草本。進化園では、12月18日から株が枯死し始めた。開花し、果実が成長したが、種子が完熟する前に株が枯死したため、採種することができなかった。本種の種子は一般に流通しているため採種の必要性は高くないが、採種する場合は苗の定植を早めることで対応できると思われる。

リュウキュウガシワ *Cynanchum liukiuense* Warb.

沖縄～フィリピンにかけて分布するつる性の多年生草本。国内（宮古島以南）では、スジグロカバマダラが食草とする。今回が進化園で初展示である。進化園では、12月27日から株が枯死し始めた。生育は早く、最終的に草丈約1mに成長し、自生状態に近い形で展示することができた。果実が熟する前に枯死したため、採種はできなかった。

ツルモウリンカ

Vincetoxicum tanakae (Maxim.) Franch. et Sav.

九州南部～沖縄にかけて分布するつる性の多年生草本。国内（奄美大島以南）では、リュウキュウアサギマダラが食草とする。今回が進化園で初展示である。生育は遅かったが、最終的に草丈約50cmに成長し、自生状態にやや近い形で展示することができた。開花および結実したが、ほとんどの果実が熟する前に枯死したため、ほぼ採種はできなかった。

ホウライカガミ

Parsonsia alboflavescens (Dennst.) Mabb.

日本～東南アジアにかけて分布するつる性の多年生草本。国内（奄美大島以南）では、オオゴマダラが食草とする。今回が進化園での初展示である。進化園では、12月18日から株が枯死し始めた。開花したが結実はしなかった。

自生地では2mを越える草丈となるが、約30cmしか成長しなかった。生育適温が高い、あるいは生育が非常に緩慢なためと考えられる。自生状態に近い形で展示する場合は、1年間は育苗したほうが良いと思われる。